

# 酒の古今東西

## 2005 別府大学 公開講座国際文化論 酒の古今東西 —文化を醸す—

文化の原点には酒がある。大地を耕すことからカルチャーという言葉は生まれた。酒はその大地の恵みである米や麦やブドウなどの作物を人が手を加え、時間をかけて醸して作り出したものである。その土地土地の特色があり、それは祭祀にも用いられた。また、酒の席である宴は、人々のコミュニケーションの場であり、共感の場であった。“シンポジウム”も酒を共に飲むということから生まれた言葉である。来年度、本学では醸造を教育・研究のテーマとする「食物バイオ学科」が創設される。本年度の企画は、このことも意識して、酒と文化の関係について大いに語ってみたい。

9月21日(水) 酒はかくして飲めるようになった  
～酒造りの技術と文化～ 本学教授 段上 達雄

28日(水) 酒を飲めぬ文化  
～イスラム文化～ 本学教授 利光 正文

10月5日(水) 酒に対してまさに歌うべし  
～中国の酒文化～ 本学教授 友永 植

12日(水) 別府大学アジア歴史文化研究所主催  
酒場と酒瓶から近代フランス美術を見る  
早稲田大学文学部教授 五十殿利治

19日(水) 酒を讚むる歌 ～万葉集から～ 本学教授 浅野 則子

26日(水) 世界の酒と微生物 佐賀大学農学部教授 加藤富民雄

11月2日(水) 映画の中の愛すべき酔っぱらい  
シネマ5館主 田井 肇

9日(水) ドイツの地方分権と酒文化  
本学教授 篠藤 明德

16日(水) お酒のある食生活 本学助教授 高松 伸枝

30日(水) 哲学における欲望と禁欲 本学教授 佐藤 瑠威

12月7日(水) 酒とアメリカ文学 本学助教授 山野 敬士

12月14日(水) 宴と音楽  
【笙のなま演奏を交えながらのお話】 笙演奏者 藤井 絵里

### シンポジウム

1月14日(土) 「酒から語る文化論」

パネリスト 三和酒類会長 西 太一郎 別府大学教授 石黒 正恒  
井上酒造社長 井上 睦子 別府大学教授 篠藤 明德 ほか  
コーディネーター 別府大学教授 飯沼 賢司

会 場 別府大学3号館ホール 入場無料  
時 間 10:40～12:10 1月14日(土)のみ13:30～16:00  
お問い合わせ先 0977-67-0101(大学教務課)